

狭山市美術家協会

水村 昭（狭山市美術家協会）

設立は1979年。その前年、中央公民館のOさんが企画した「狭山市在住美術家展」に端を発します。当時狭山市も人口増加の一途にあり、美術家の在住者も相当いるのではと、主に都美術館を発表の場にしている多くの美術団体の名簿から、狭山の人を拾い出したOさんの呼びかけで、前記展がこの年2回、春秋と中央公民館主催で開かれました。

ここで初めて顔を合わせた作家たちの間で、自立の気運が高まり、以後は会をつくって続けようということになり、今の文団連の前身「狭山市文化協会」美術部門の人が中心になって、「狭山市美術家協会」を設立したわけです。そして、第3回展からは毎秋の定期展として現在に至っております。本年も10月19日～21日、第31回展を開催することになっています。

本会は、絵画（日本画、洋画、版画）・彫刻・工芸の3部門を擁し、狭山市の美術文化の振興と市民文化の啓蒙を目的として活動しております。また、市内各種のこどもの絵画展の際には、その審査・展示について協力しております。協会展を機に市民交流会を催していますが、2004年からは「美術講話」と称して、作家の芸術観・技法などを語りながら市民の美術へのさらなる関心と理解を深める催しを行っております。

興味をお持ちのかたは、今年もどうぞご来場ください。

芝居づくりを楽しむ

-- 狭山市民劇団ステップ --

「狭山市民劇団ステップ」が設立されはや12年、幅広い年齢層で構成され芝居創りを楽しんでいます。

劇団は年1回の公演に向け毎年12月から翌年3月までの4ヶ月間、公演台本の選定作業に入ります。

候補作品は劇団員の努力で、都度12～13点集まり毎稽古日に読み合わせをし読後の意見交換をします。劇団のカラーに相応しい台本（笑いあり・スリル？あり・涙も欲しいかな？）を数点に絞込み、その中から劇団員のコンセンサスのもと、上演台本決定と相成ります。

台本が決定する迄のプロセスは楽しくもあり苦しくもあり、決定した時の喜びは芝居創りの魅力の一つです。

現代演劇（古典は除く）のグループはプロ・アマ併せて、8,000～9,000とも言われています。その膨大な演劇グループの中に狭山生まれの狭山育ち、市民と共に12年。「井に座して天を見る」に陥らないよう、今後も視野を広げ演劇活動を進めていきます。

乞うご期待。

代表 能川 堅弥

